

土・まち・みどり

通信 第58号

2015. 2. 19

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS ◆つどいの報告 ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の歴史を訪ねて ◆フラワーアレンジメント講習会
◆活動報告 ◆会からのお知らせ

晩秋のつどいレポート

1. お話し

「江戸東京野菜」

今回は食料のお話です。講師は現在農林水産省大臣官房統計部数理官の中田哲也氏です。氏は環境に優しく持続性のある食料供給について研究され、輸送距離を考慮に入れたフードマイレージを追求、地産地消、ご当地野菜作りによる農業の持続性を啓蒙普及されています。

現代は流通が広域化され、郊外型ショッピングセンターの店舗が増えています。私たちの食生活が大きく変化してきました。これを供給熱量を物差しとして見ていくと、栄養バランスの崩れなどが見えてきます。国民の食に対する不安感が高まり、食と自分たちとの間の距離が長くなっており、自給率が下がってきています。

日本は食料自給率世界5位ですが、畜産が3割を占めていてその餌は殆ど輸入していますし、野菜もカロリーを考慮すると少ないといえます。

食料消費構造の変化と食料自給率の変化を見ますと欧州は油分が少なく自給率が上がっていますが、日本はアメリカ化して下がっています。

穀物の国際価格も気になります。値段は安定的とはいかず、人口が増えると餌になる穀物も増えていきます。

日本の輸出は極端に少なく輸入ばかりです。フランス・ドイツ・カナダ等も日本と同様に輸入していますが、何れの国もかなり輸出をしています。

世界の食糧需給を決める要因は世界人口の増加、所得の向上による畜産増加、収穫面積の増加、収穫の増加などがあります。一方世界の飢餓状況は深刻で、栄養不足人口は8.7億人、5歳以下の子どもたち5億人が低体重、毎年250万人以上の子どもたちが栄養失調で死亡しています。

また、供給熱量と摂取熱量を比較すると多量の食

べ残しがみられ、摂取熱量の減少があります。世界でも生産量の三分の一がアフリカ等で腐ったりして廃棄されています。欧米・日本では家庭で廃棄されています。日本の食品ロス日本の米生産量に匹敵し、これは世界の食糧援助の2倍に当たります。私たちの食生活が地球規模の環境や資源に負荷を与えているといえます。この後話はフードマイレージの考え方になり、輸入食料を運搬する船が出す二酸化炭素を距離から算出して考慮することから、地産地消が推奨されます。その結果として、大蔵大根等の具体的な江戸野菜が実物とともに紹介されました。

(赤松)



2. おくさわコンサート 「ピアノ演奏とヴォーカル」

枯葉、サン・トワ・マミー、セ・シ・ボン、愛の賛歌等常盤正徳さんのピアノ弾き語りとお・ソレ・ミオ等お弟子さんの御宿弥寿子さんのヴォーカルでのシャンソン特集でした。その後全員で紅葉、知床旅情、翼をください等を歌い、楽しい時間を過ごしました。良い音追求のために、事前に音合わせに来られたお二人の入念な準備に感心しました。(赤松)



おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「私のふるさと」

奥沢2丁目 田村 誠・道栄

祖父の代より約100年程、この奥沢に在住しております。今、思うとこの地で生を受け、最後を迎えるその日まで「奥沢」という場所に縁があったのだとつくづく思います。

私の幼い頃は、最低でも100坪以上のお屋敷が立ち並び、庭が素晴らしく広くゆったりとした景観をしていました。毎日の様に子供等の遊ぶ声が沢山聞こえてきて本当にのどかな奥沢でした。もちろん私もその一人です。各家庭の庭先には、男子のいる家庭には、丸太組みで作られた高さ2メートル以上あるこいのぼりが、かかげられていました。毎年、子供達は、そのこいのぼりを見るのが楽しみで、各人のこいのぼりを見に遊び方々訪ねていたものです。必ず、縁側があり、おみかんや、お菓子を食べながらお茶を頂くのが楽しみで近所の友人を誘って今で言うお茶会を沢山の人数でしていました。

私の家には、十年近く住み続ける住人が、もう一人います。それは「かえる」です。春になると必ず出てきて、夏の間はありを食べたり昆虫を食べたりしながら秋になり、そして冬は同じ場所で冬眠する、そんなゆっくりとした時間が流れていました。

奥沢は武蔵野台地の上であり湧水が多く見られ、小川もみられました。緑多い地で、シラカシやケヤキ、ムクノキ、イヌシデやコナラが多く分布していました。私達の代でも緑を多く植えています。これからは庭の緑化や地域の植生等、もっと心を配っていかなくては思う次第です。この緑多い奥沢を若い人達が子育てしやすい環境を作っていくことが、私達世代にかせられた大きな課題ではないかと思えます。全ての生き物は、自然の中に生き自然の中に帰っていく。

一日一日を大切に過ごしたいものです。



「我町奥沢 老いて時の流れを振り返りて」

奥沢1丁目 毛利 猛

土・まち・みどり通信の「今と昔」に、記載の要請を受け、小生昭和二十二年生まれ六十七才、当活動におきまして新入りの部に属し日々勉強、経験の途上でございます。さて、支離滅裂な文面にてお許しいただき、動くままペンを走らせていただきます。

終戦直後に生を受け奥沢地区内でもめずらしい藁ぶきの屋根の家でそだち、幼少の頃、「タダイマ」と入口を入るとまだ靴のまま、内部は土間が有る古い家でした。中でも、東玉川小学校のクラスの社会見学にも選ばれ当時非常に「ハズカシイ」思いをした記憶が有ります。又、定刻にニワトリ小屋の卵の回収当番として日々をすごしていました。世田谷区、目黒区、大田区の三区が隣接し合う地に住み、あたり一面畑に囲まれ通学の畦道いたる所に危険場所、「コエダメ」が有りそれが草に隠れ気をぬく事は出来ず、又遊びの最高のフィールドにて、ドジョウ、ザリガニ、ギンヤンマ、オニヤンマ、そしてスイカの試食会？、今思えばその自然の景色の中にも四季を通じて草花が精一杯咲きほこっていたと思いだされます。

現在、退職後、母の介護の合間、地区の活動、奥沢地区ごみ減リサイクル、土とみどりを守る会に参画し時の流れと奥沢変貌を身体に感じつつより良い町づくりをモットーに日々をすごしています。

皆様の緑に対する愛情が満ちあふれる中、ゴミ一つない歩道で散策する中、あれ！！ この樹木、この花、植木、何と言う名前なんだろう？年と共に視点が変化し、毎朝目覚めた時幸福を感じる日々です。奥沢の町並み、人間の温かさ、立地条件とあらゆる点で大好きです。洗足池、浄真寺、等々力溪谷、駒沢公園と語り尽くす出来ない程、思い出と共に育てていただきました。

今この素晴らしい奥沢を後生の子供達にバトンタッチ出来ます様、諸先輩達のご指導をいただき、スズメの足跡のごとく残せればと邁進していきたい。

奥沢の歴史を訪ねてX I

奥沢近辺の城址と地名⑤その他の城址 (iv)

今回は兎々呂城址を中心に紹介する。

世田谷南部を守る奥沢城周辺を見てみると、南條氏の小谷岡城（兎々呂城・深沢城）、長崎氏の瀬田城（行善寺城）、野毛砦（等々力城）、大平砦（奥沢小）、朝鮮丸砦（大音寺）、出張り（田園調布中）等が言い伝えられているが、最初の2城以外は不確実で推測の域を越えず、否定する意見もある。

後北条氏の家臣南條右京亮重長が北条氏康のもと安房里見義弘に矢切の渡しの戦いで破れた後、夜襲に軍功をたて、深沢村の兎々呂城を賜った。そこは現在都立園芸高校のあるところではあるが、とても城を構える適地とはいえない。緩やかな斜面があるのみである。

等々力の名前は①この「兎々呂城（トドロキと読む）」説と②源実朝家臣土岐左衛門が深沢にもともと住んでいたから「土岐の城」説と③不動の滝の音が「轟く所」説とがあるがどれかは不明である。兎々呂の読み方がよくわからないが、これをトドロキと読み、等々力の語源であると言われている。

城の主南條右京亮は大変戦上手でいくどか感状を受けられていて、天正18年豊臣秀吉により小田原城を包囲されたときは旗奉行として騎馬侍50人、徒歩侍200人を率いて、秀吉本陣の一夜城に最も近い小嶺山の持口を守備している。北条氏滅亡後山崎但馬と名前を変え、深沢村に引き籠もっていたが、後徳川氏の御家人となり、甥の藤川正次郎が身代わりに仕官、391石を所領した。右京亮の子孫は谷岡

(私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介します。)

を称し、代々深沢村の名主をつとめていた。

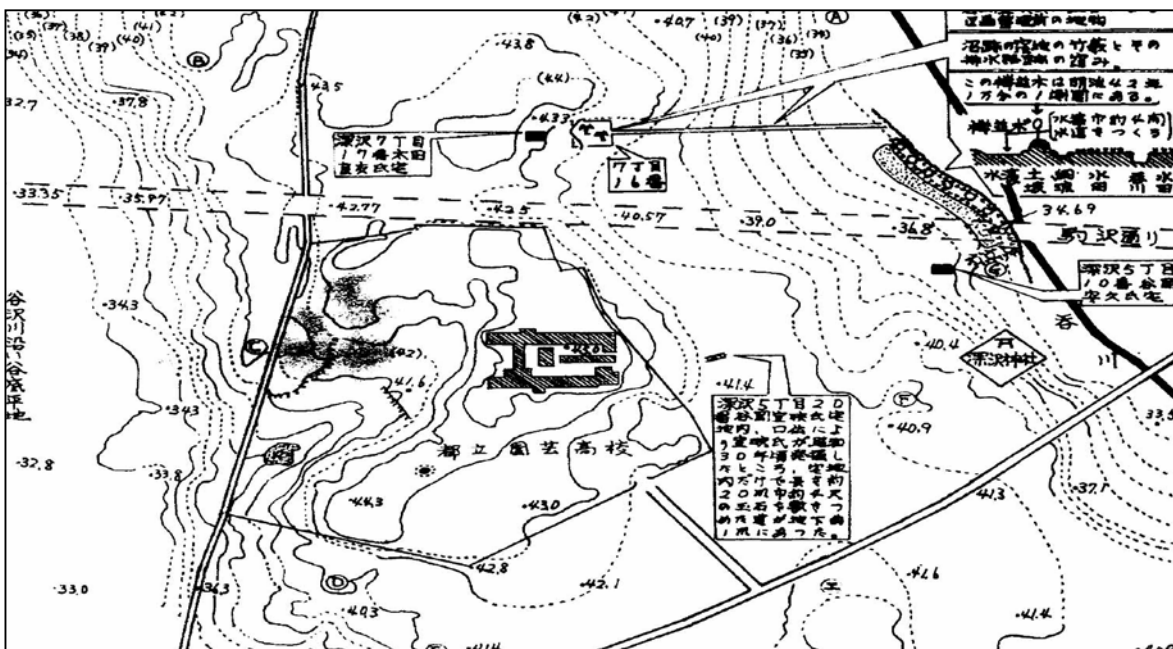
この場所は台地が比較的急な角度で西の谷沢川谷底平地に落ち込み、その一部が浅い谷を作って南西から北東方向に150mほど入り込んでいるが、それ以外は緩い傾斜で築城の適地とは言いがたい。末裔の谷岡宣映氏が玉石造りの道路を発見しているが、玉石は取り出して他に転用してしまったようだ。しかし、掘ったのは宅地内だけだそうなので、延長線上を掘れば再発見は可能である。

新編武蔵風土記稿によれば「～搔上の城なり…重長この所をこぼちて平地となし、そのまま蟄居せり。その後重長子孫は出丸の跡に移り住す。～」とあり、空堀を掘りその土を掻き揚げて、土塁や小高台を築いた城であったと考えられる。氏によれば現存する土手・並木・水豪・沼跡・排水路なども遺構の一部ではないかという。また、城の中心部は地形上から現園芸高校校舎のあるところと考えられる。

都立園芸は明治41年（1908）谷岡慶治氏が東京府議会議長のときに創立された旧東京府立園芸高校である。現在校門前に兎々呂城址の石碑が建てられているが、それ以外に残されているものはなく、城址跡の面影もない。

なお、近くの深沢神社は以前三島神社といい、南条（小谷岡）重頼が永禄7年（1564）伊豆の三島の分霊を勧請したものである。また、兎々呂城内にあった満願寺は1549年に現在地に移されているので、これ以前に砦などがあったのかもしれない。

(赤松)



フラワーアレンジメント講習会報告 (小田島鏡子さん)

日時：2014年12月13日(土) 13:30～16:30

場所：奥沢東地区会館

テーマ：水上リースでなごみの境地へ

講習内容：「リースづくり」と「お好みの色のアレンジメントの映像紹介」

講師：佐藤暁美さん(マミフラワーデザインスクール登録講師)

参加：21名

素材：トルコギキョウ(八重)、ガーベラ、ピペリウム、ハツユキカズラ、ブルースター、ローズゼラニウム、ツタ、資材

完成した時にリースとともにグラスにキャンドルを入れて灯すための大きな皿が必要でした。チラシを良く読まず小さな皿で失敗。

リースの基になる枝を撓めて丸い形にしてツタを絡めるのに、つたの枝が意外と丈夫で上手く絡めら

れない。マツボックリを絡めるための針金の使い方がわからない・・・何とか形ができてきたところで、講師の声「前提はリースですよ」生花のように真ん中も花や青物で詰まっている。われ以外は皆上手の気持ちになるけれど、そこはプロの講師です。

少し手を入れて頂くと見違えるようになる。講師が用意された様々なグラスに水を入れてフローティングキャンドルを灯しそれぞれの作品ごとに写真撮影。作品どれもが力作揃い、楽しいクリスマスになりそうです。パソコンの調子が今一つでしたが、作品ごとの講評が素晴らしい。いつものことながら受講生をやる気にさせ、また参加しようという気になる。

お好みの色のフラワーアレンジメント映像紹介も良かったのですが時間に追われて少し残念でした。準備いただいた皆さん有難うございました。



活動報告

- 1月18日奥沢小学校で開催された新春奥沢地区祭りに参加し、活動紹介の展示を行いました。冬晴れの中、アツアツのハーブティーで暖まりながら、チェリーセージ等の苗や種子の配布で、交流しました。
- 生垣や大きな庭木でこの街の特徴的な緑を形成していた住宅地が、細分化され緑少ない住宅に変わり、地域の緑の急激な減少が進んでいます。無力感を感じながら静観するのではなく、何らかの働きかけができないか、当会の活動についての基本的な議論を続けています。もう一つは東日本震災地の、津波被災のための緑化活動への参加の可否についても話し合いをしています。外部への積極的活動の二つの流れに、皆さまの議論参加をお待ちしています。

会からのお知らせ

- 春のつどいは、3月14日(土)午後1時半から、奥沢東地区会館で行います。フラワーアレンジメント講習会講師である佐藤暁美さんの所属するマミフラワースクールの校長川崎景介さんの花と歴史や文化(今回は桜)についての多彩なお話しをお聞きます。(詳細はチラシでご案内します。)
- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。

どうぞご協力をお願い致します。入会のご相談は下記へお寄せ下さい。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659

ホームページ : <http://tsuchimidori.net>

e-mail : info@tsuchimidori.net